

自己評価表

新居浜特別支援学校
学校番号(56)

教育方針	<p>1 生きる力を身に付けるために、学ぶ意欲、豊かな心、健やかな体をバランスよく育む。 2 「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「意欲・人間性」等の資質・能力を育成するために、主体的・対話的で深い学びを実践する。 3 一人一人がもつ可能性を伸ばすために、障がいの状態や発達等に応じた指導・支援の充実にを図る。 4 自立と社会参加を実現するために、一人一人の学びの連続性の確保に努める。</p>	重点目標	<p>1 児童生徒にとって行きたい学校、楽しい学校を目指す。 2 お互いを認め、協力して活動し、自立を目指す児童生徒を育てる。 3 児童生徒一人一人のニーズに応じた目標を設定し、基礎・基本の定着を図る。 4 一人一人が生き生きと活動する授業実践を目指す。 5 特別支援学校としての地域におけるセンター的機能の充実に努める。</p>		
領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
学習指導	分かる・できる・考える授業の実践	<p>○児童生徒が授業の中で学習の見通しを立て、課題意識を持ち、主体的な学習につながるような活動を取り入れる。また、学習活動のねらいを明確にし、授業を振り返る機会を設け「分かった」「できた」と感じる授業の実践に取り組む。</p>	A	<p>・今年度は文部科学省「子ども食育推進事業」の指定を受け「食」に関する自己管理能力の育成を目指し、農作物の栽培などの体験学習や郷土料理作り、見学など「食」に関連した授業や活動を実施した。児童生徒が「食」に対する関心を深め、有意義な学習となった。 ・「人と関わる力を育てるための授業づくり」の研究テーマに基づく授業実践を通して、教員間で具体的な支援の在り方や授業の実践について検討をした。</p>	<p>・「食育」「キャリア教育」などの観点も一層踏まえながら、次年度も引き続き児童生徒の興味関心や、主体的な活動を促す授業の実践に努める。 ・児童生徒の支援方法について、話し合いや評価を行い、教員間の共通理解を図る。 ・懇談や連絡帳を通して児童生徒の学習の様子、将来を見据えた支援の在り方などについて保護者に丁寧に伝え、学校、家庭、関係機関との連携に努める。</p>
学習指導	教材・教具の工夫	<p>○障がいの多様化に対応し、児童生徒の実態に応じた教材や教具の工夫、ICT機器等の活用を行う。 ○学習指導の成果を蓄積できるデータの保存場所を整備拡充する。 ○これまでのICT機器の活用に加え、学習系Wi-Fiシステム環境の整備や新たな活用方法の研究と有効な方法の提案を行っていく。</p>	A	<p>・新型コロナウイルス感染症対策のため、全校行事等を分散化したり、縮小した形での実施を余儀なくされた。学習指導の成果を蓄積する保存場所の活用で全校的に情報を共有することができた行事も多い。 ・ICT充実事業で教員一人一人に配備された教育用端末の活用を行いプレゼンテーションなどで説明をしたり、記録した動画を見せたり、リモートを行い、遠隔で活動を共有したり、活用方法もバリエーションが増えてきている。</p>	<p>・児童生徒の実態に応じた教材・教具の工夫を「教材保管庫」の拡充により、効率の良い蓄積の方法を検討する。 ・児童生徒用のタブレットが一人1台配布されるため、これまでのICT機器の活用に加えてより有効な活用方法を研究し紹介したい。</p>
特別活動	特別活動の充実	<p>○学校行事や部活動において、より教育効果が高められるよう内容の精選・改善を行う。 ○運動会、文化祭、学習発表会などの学校行事や部活動の集団活動の中で、一人一人が役割を持つことで主体性や協働性を高めながら活動自体を楽しめるようにする。</p>	C	<p>・新型コロナウイルス感染症対策のため、学校行事の中止や縮小、部活動開始の延期など大きな変更が余儀なくされた。教育効果の低下を招かないよう、分散閲覧、入替制、作業製品の注文販売等できる範囲で最大限の工夫をし、実施した。児童生徒の「楽しいかどうか」という観点で言えば、昨年度より大きく評価を下げる結果になってしまった。</p>	<p>・新型コロナウイルス感染症対応が先に来る一年であった。児童生徒の安全の確保が優先させるべき事項なのでやむを得ないところがあるが、内容の精選・改善という点では、革新的な一年になった。省けるものは省き、より効果の高い内容へとシフトしていく良い指針を得られたと感じている。新型コロナウイルスがなくなると、積極的に学校行事等の精選・改善を進めていきたい。</p>
生徒指導	生徒指導の推進	<p>○児童生徒が安全・安心な学校生活を送ることができるよう、全教職員で生徒指導の充実にあたる。ルールやマナーを守ることを通じて規範意識を高め、よりよい人間関係の構築につなげる。また、交通安全教室、防犯教室などを実施し、関係機関や地域との連携を図り、児童生徒が自分の身は自分で守るための知識や能力を育成し、実践力の向上に努める。</p>	B	<p>・児童生徒が安全・安心な学校生活が送れるよう、実態に応じた学習方法や指導・支援を行い、大きな事故等もなく過ごすことができた。関係機関や専門家を招き、ルールやマナーを学ぶ機会を設定したり単独通学生指導などを実施したりすることで、友達同士でも注意し合い、周囲の人とのつながりも意識できるようになってきた。交通安全や防犯についても、自分の身を守るとともに、周囲の人と協力し安全につなげることも学習した。</p>	<p>・今年度実施した活動については、児童生徒により定着するよう継続して行っていきたい。また、生活様式にも変化があった一年であったので、学習方法、指導・支援の仕方、活動の実施方法もそれにあったものに可能な限り変えていきたい。マナーやルールを守る意義や守ることの自分や周囲への影響についても理解できるようにし、児童生徒が納得できるような生徒指導を行ってほしい。その中で、専門的な知識をもつ関係機関や保護者等とも連携を図りながら、児童生徒が安全・安心な学校生活にしてほしい。</p>
生徒指導	人権・同和教育の充実	<p>○学校間や地域との交流の充実に努め、他者を受け入れ、互いの良さを認めあう環境作りを努める。また研修会などを通して教職員自らの人権感覚を磨き、児童生徒の出すサインを見逃さずに対応するとともに、「人権だより」の発行やいじめ調査などを通して人権啓発を図る。</p>	B	<p>・いじめ調査(年2回)を実施して、児童生徒からのサインに対応するとともに、人権だより(年2回)の発行を通して人権啓発を図った。 ・校内人権教育研修会では、外部講師の先生による講演「絵本を通して考える人権～ふつうって何?」を聴き、当たり前にも思っていることを様々な角度から見つめ直し、教職員自らの人権感覚を磨いた。</p>	<p>・今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、学校間や地域との交流が中止になり、外部の人たちとふれあう機会を作ることができなかった。来年度は交流活動を再開し、地域社会と連携して人権の理解・啓発に努めたい。</p>

進路指導	キャリア教育の推進と充実	<p>○児童生徒の特性や発達段階に応じて組織的、系統的なキャリア教育を推進し、卒業後の生活につなげる。</p> <p>○現場実習等の体験活動を実施し、自立と社会参加に必要な力を育てる。</p> <p>○キャリアガイド教室や実技指導アドバイザーの活用等の進路学習を充実し、働くことへの意欲や態度を養う。</p> <p>○学校公開セミナー、合同就職説明会等を実施し、関係機関や事業所との連携や理解を深め、適切な進路指導を行う。</p> <p>○就労支援コーディネーターと連携し、現場実習先・就労先の開拓、卒業生の職場定着支援を充実させる。</p>	C	<p>・高等部の前期校内・現場実習については、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、1・2年生は中止して作業学習の時間へと変更した。3年生は校内実習を行い、7月下旬から9月上旬に現場実習を実施した。後期校内・現場実習については、普通科2年生の集団実習先、実習期間を変更して実施した。</p> <p>・実技指導アドバイザーの活用については、時期を変更し12月・1月開催の地区検定と県検定前に集中して実施した。小学部の2回のキャリアガイド教室は感染拡大が懸念される時期に実施予定であったため、中止となった。</p> <p>・学校公開セミナーは授業参観は中止し、小・中・中学部保護者と高等部保護者を対象に2回に分けて実施した。合同就職説明会はWEB開催となった。</p> <p>・就労支援コーディネーターと連携し、現場実習先・就労先の開拓、卒業生の職場定着支援を行った。</p>	<p>・早期から集団実習受入先を検討し、定期的に連絡を取り合いながら実施できるようにする。</p> <p>・高等部のキャリアガイド教室について、今年度は対象を産業科としていたが、普通科の希望者を含めることを検討する。</p> <p>・学校公開セミナーは、関係機関・事業所から要望、新型コロナウイルス感染症対策を考慮し、今年度の形式で実施する。</p>
健康安全	保健教育の充実	<p>○定期健康診断や毎月の身体計測の実施により、児童生徒の健康状態を把握し、一人一人のニーズに応じた保健教育を行う。体重管理児童生徒については、保護者や校内関係者と連携し、個別指導の充実を図る。</p> <p>○感染症対策として、望ましい生活習慣の確立、うがい、手洗いを中心とした予防の徹底を図る。</p>	B	<p>・新型コロナウイルス感染症予防のため、健康診断の実施時期・方法が例年とは大きく異なったが、その中でも対策を工夫し、学校医とも協力し全ての検診を実施できた。</p> <p>・感染症予防については、それぞれの発達段階に応じて、機会あるごとに指導を行い、家庭とも連携し習慣化を図り、意識の向上につながった。</p>	<p>・検診の時期がずれたことで、事後指導や専門医へつなぐタイミングが遅れた。余裕あるアフターフォローができるよう、感染状況に注意しつつ円滑な検診の実施を目指す。</p> <p>・臨時休業や外出控えで、体重増加の生徒が目立った。新しい生活様式に応じた生活習慣が定着するよう多方面からの継続的な指導を行いたい。</p>
健康安全	安全教育の充実	<p>○関係各機関と連携し、児童生徒が安全に関する知識を身に付け、自らの安全を守るよう、外部講師による出前講座や、避難所体験などの体験型学習の充実を図る。防災安全マニュアル、不審者対応マニュアルなどを配付、説明し、実践的な研修や訓練を通して教職員間で安全対応についての共通理解を図る。「学校安全だより」やホームページ等による活動紹介を通して、学校安全に関する取組の目的や成果について情報発信し、保護者への啓発と理解促進を図る。</p>	C	<p>・新型コロナウイルス感染症対策のため、外部講師による出前講座や避難所体験など、計画していた活動が実施できなかった。避難訓練は学期に2回以上実施し、児童生徒の実態に応じた安全学習を行った。</p> <p>・臨時休業中に学校安全マニュアル研修会や水害対応避難訓練を実施した。学校安全マニュアル研修会では校内の消火設備の確認と使い方について研修し、実際に放水訓練を行うなど教職員の安全対応のスキル向上につながった。</p> <p>・避難訓練の様子や防災に関する備えなどの情報を、学校安全だよりやホームページ等を活用して情報発信した。</p>	<p>・避難を伴う訓練や自らの身の安全を確保する訓練を繰り返し行うことで、多くの児童生徒が安全に関する正しい行動を身に付けている。今後も新型コロナウイルスの感染状況に応じた避難の在り方を検討し、児童生徒の安全を守る学習内容を実施したい。</p> <p>・災害発生時に児童生徒が身の安全を守るよう教職員が指導できるために、効果的、実践的な研修や訓練を実施したい。</p> <p>・今後も様々な方法で児童生徒の学習の様子や学校安全に関する取組の目的や成果について情報発信し、理解と啓発につなげたい。</p>
研修	授業力の向上	<p>○学校の重点努力目標を受けた研究テーマに基づき、計画的に各グループ・部ごとで研修を行い、授業力の向上を図る。「人と関わる力」を評価の観点とした公開授業や研究授業を各部3回実施し、授業参観を通して研修を深め授業改善を行う。</p> <p>○キャリアアップ研修Ⅱ、初任者の研究授業及び授業研修会に一人1回参加する。また、協議内容を全教員で共有することで授業力の向上を図る。</p>	A	<p>・研究テーマ「人と関わる力を育てる授業づくり」の校内研究は3年計画の最終年度であった。新型コロナウイルス感染症対策のため公開授業(校内研修)を実施することができなかった。グループ研修会は年間7回実施し、「人と関わる力」を評価の観点とした研究授業を各部3回実施した。授業参観後、グループや部で研修することで授業改善を行った。また、外部専門家を活用した研修会を行ったことで、児童生徒の支援や授業改善に生かされた。</p> <p>・研究授業は、一人1回、DVDで授業を視聴し、授業研修会に参加した。授業研修会で協議することで、授業実践力が向上した。</p>	<p>・来年度の校内研修は、「自立活動の個別の指導計画」作成に伴い、自立活動についてグループ研修を行う予定である。公開授業(校内研修)では「自立活動に関する目標」を教室に掲示し、評価の観点とした授業を行い、授業力の向上を図る。</p> <p>・研究授業、授業研修会は、DVDで授業を視聴し、意見や感想は付箋や授業評価表を活用し、新型コロナウイルス感染症対策を考えながら実施する。</p>
研修	専門性の向上	<p>○自立活動の指導についての校内研修会、外部人材を活用した研修会を行い、専門性をさらに高める。免許状認定講習受講の案内や免許状取得の方法などを紹介し、特別支援学校免許状保有率75%以上を目指す。</p>	B	<p>・年度始めに自立活動の指導についての校内研修会、12月に外部人材を活用した研修会を実施した。自立活動の指導を向上するための基本的な事項について理解を深めた。本校の「自立活動の個別の指導計画」作成の流れを共通理解し、自立活動の指導について専門性の向上が図られた。</p> <p>・免許状取得については、今年度の二種免許状取得者は2名である。また、17名が認定講習を受講しており、免許状の取得、領域追加を目指した。今年度末の時点で教諭の特別支援学校免許状保有率は93.4%である。</p>	<p>・今年度の校内研修会のアンケートを生かし、教員の希望に沿った研修会が行えるよう、研修計画を立てる。外部講師も活用し、専門性の向上が図られるよう研修を実施していく。</p> <p>・免許状取得については、取得したい領域の免許状に必要な単位の条件や取得までの一連の流れを明確にした資料を継続して希望者に配付し、連絡ボードや職員会議を通して免許状取得に関する情報発信を行い、免許状取得者を増やし特別支援教育に関する専門性の向上を図りたい。</p>

	センター的機能の充実	○特別支援学校の専門性を生かし、地域の園、学校からの依頼に多様な方法で対応し、教員や保護者等への丁寧で継続した指導や助言を行う。校内体制を整え、地域のニーズに応じた研修協力をを行い、より具体的な情報提供に努めるとともに、関係機関と協力して地域における特別支援教育のセンター的機能の充実に努める。	B	・地域からの教育相談は100件を超え、昨年度の2倍の件数となった。みしま分校の開校に伴い四国中央市在住者への情報提供を実施したことや、高等部入学を検討している保護者への教育相談の実施により充実が図られたと考える。保護者の希望に応じて学校の概要説明や参観、教育相談や体験学習をし、適正な就学になるよう情報提供した。加えて、園や放課後等デイサービスの職員への参観依頼に応じ、電話での相談にも随時対応した。教育相談等実施後にはコーディネーター全員で情報共有をし、よりよい支援の方法についての助言や情報提供が行えるよう、コーディネーターとしての専門性を高めるようにした。	・感染症拡大防止のため、地域の学校等に出向いての研修が行われず、三島小学校教職員に対する研修のみの実施となった。相談が積極的に行えなかったことで、配慮の必要な児童生徒に適切な指導・支援が行われていないことが考えられる。地域での就学相談や本校での教育相談の機会を捉え、積極的に相談・研修の案内をしたり、地域の学校等のコーディネーターや担任が気軽に相談できる日を設けたりするとよいと考える。
学校運営	PTA活動の活性化	○PTA行事を早目に計画して、理事会で綿密に協議し、実施する。保護者全員がPTA活動の状況が分かるように理事会記録や座談会報告を配付する。二人一役運動を活用して、多くの保護者に積極的な参加・協力を呼び掛ける。意見箱の意見に速やかに対応して学校改善のために取り入れる。	C	・PTA行事の中止や縮小等で十分な活動ができていなかったが、創意工夫をし、どのようにしたらいいかを考えて実施できるよう取り組んだ。 ・見やすくまとめた理事会報告・座談会記録を全保護者・教職員に配付し、PTA活動への理解協力を深めた。 ・PTA活動の活性化に関する項目では、保護者・教職員ともに80～85%での横ばい状態であるが、工夫しながら理事・役員を中心に行えるよう活動を実施した。	・PTA活動が活性化するように、理事・役員を通して、多くの保護者の協力を募りたい。保護者同士の繋がりを深めるために、学部や学年だけでなく地域の繋がりも大切にして情報交換ができるように工夫したい。 ・HP、マチコメメールや意見箱を活用して、学校改善に生かせるように保護者に発信するように心掛けたい。
	経費の効率的な運用	○児童生徒及び教職員の増加により、設備維持管理費が増加しているため、計画的な経費執行を行い教職員・保護者と連携を取りながら学校設備の充実を図る。	B	・新型コロナウイルス感染症対策のための経費執行でIpad、ウェブカメラ外の遠隔教育設備の充実、感染拡大防止対策物品購入により、新型コロナウイルスの感染の抑制を図ることができた。	・新型コロナウイルス感染症対策のための感染拡大防止対策物品購入により、感染を抑制し安心して学校生活を送れるように衛生環境を確保することに努めたい
業務改善	適切な勤務時間	○働き方改革を推進し、業務の効率化・平準化を図る。○リフレッシュデー(定時退庁日)を周知するとともに、グループウェアの勤務時間管理機能を活用し勤務時間を可視化することでタイムマネジメントの意識を高める。	B	・スクールバス増便への対応、職員室の密対策のため職員朝礼を取りやめ、インターネットの連絡ボードで効率的に情報共有することで、朝の児童生徒の受け入れに余裕ができた。分散登校や自然災害対応等、各家庭への電話連絡を一斉メール方式に変更した。 ・出退勤時間を記録することで自身の働き方を意識化した。	・感染防止対策の必要性に迫られ、例年と在り方を変更せざるを得ないことが多く業務量が増加したが、これを契機とし効率化できるところは固定概念にとらわれず見直していく。出退勤記録も活用し、負担が増加している教職員に目配りして平準化を図る。 ・リフレッシュデーの実効性を高めると同時に、勤務時間の長さや勤続性を同一視してしまいがちな従来の意識からの脱却を図る。
	職場環境の整備	○校内衛生委員会を活用し、教職員の心身の健康について早期に把握、情報共有すると同時に、相談しやすい職場の雰囲気作りに努める。	C	・校内衛生委員会を定期的に開催し、情報や課題の共有ができた。感染対策に関連した様々な場面で昨年より業務が増えた半面、職員間の交流や親睦の機会もなく、意思疎通が不十分だったり疲労の蓄積が見られる教職員もいた。	・教職員の心身の健康はその教職員にかかる業務量と人間関係に密接に関わってくることから、部課科学年団など小集団でお互い声をかけあうと同時に情報共有を図る。 ・風通しの良い相談しやすい雰囲気作りを管理職が率先して心掛ける。

※評価は5段階(A:十分な成果があった B:かなりの成果があった C:一応の成果があった D:あまり成果がなかった E:成果がなかった)とする。